

## 東区E産探求プロジェクト事業

### 企業×〇〇で共に創る！新潟市東区オープンファクトリーから考える、 「産業のまち」東区のこれから

開志専門職大学 剣持真心

私は、このたび令和8年1月31日（土）新潟市「東区E産探求プロジェクト事業」として開催された、『企業×〇〇で共に創る！新潟市東区オープンファクトリーから考える、「産業のまち」東区のこれから』をテーマにしたシンポジウムに参加しました。

今回シンポジウムで行われたトークセッションや発表を聞いて感じたこと、気づいたことを記事としてレポートします。

東区E産探求プロジェクト事業

新潟市東区  
オープンファクトリー  
から考える

企業×〇〇で  
共に創る！

「産業のまち」  
東区のこれから

令和8年1月31日(土)  
13時30分～15時30分(予定)  
(料金は13時)

参加費  
無料

会場 東区プラザ ホール(東区西浜2期)  
定員 先着150人程度  
(※抽選・1次券、受け付けを終了しました)

13:30-13:45 開会の挨拶  
13:45-14:10 新潟市東区オープンファクトリー2025での共創の取り組み発表  
14:10-14:50 先進事例紹介  
14:50-15:30 クロストークセッション

プログラム詳細・お申し込み方法は、裏面をご覧ください

NIIGATA  
東区オープン  
ファクトリー  
OPEN FACTORY

「民間企業を中心とした地域での  
共創や産業観光の取り組み」について

13:30-13:45 開会の挨拶  
新潟市東区オープンファクトリー実行委員会  
実行委員長 清水 伸氏(興隆空 代表取締役)

13:45-14:10 新潟市東区オープンファクトリー2025での  
共創の取り組み発表  
新潟市東区オープンファクトリー参加企業×新潟大学学生  
(アイウッド機、舞小野組、梅トクサイ、柳牧建設等) (※1次抽選)

14:10-14:50 先進事例紹介  
三益 工場 工場誘成2025実行委員会  
実行委員長 秋元 朝平氏(新青丸 取締役専務)

14:50-15:30 クロストークセッション  
三益 工場 工場誘成2025実行委員会 秋元実行委員長、  
梅野徳山建設所、北野建設工業株、梅田精工所(3社主催)、  
実行役 新潟市東区オープンファクトリー実行委員会  
実行委員長 清水 伸氏(興隆空 代表取締役)、  
新潟市東区 奥澤 昌二部長(新潟大学経済学部 助教)

今後の新潟市東区オープンファクトリーと  
産地観光について

パソコンからの  
お申し込み

スマートフォンからの  
お申し込み

電話でのお申し込み  
025-243-7042

FAXでのお申し込み  
FAX 025-241-0768

新潟市東区E産探求プロジェクト事務局

〒951-8501 新潟市東区西浜2期1-1-1  
電話 025-243-7042 FAX 025-241-0768

新潟市東区E産探求プロジェクト事務局

(上：イベントチラシ)

### 当日の流れ

- ・新潟市東区オープンファクトリーの開催経緯や実績等  
(新潟市東区オープンファクトリー実行委員会 清水実行委員長)
- ・新潟市東区オープンファクトリー2025での共創の取り組み発表
- ・先進事例紹介
- ・クロストークセッション

①新潟市東区オープンファクトリー2025での共創の取り組み発表については、新潟市東区の企業と新潟大学の学生が協力し合い、商品・サービスの提案や開発を行ったことの紹介でした。5つの企業での共創の取り組みの成果を聞き、企業と学生それぞれにメリットがたく

さん見受けられました。企業側にとっては若い世代の素直な反応やフィードバックが貰えたことや、仕事を見つめ直すきっかけになったり、学生側にとっては実践的な経験ができたことや、業界を理解し、知識を繋げ考える力が身についたりしたという意見が挙げられていました。

また、この企業と学生が共創するということが、開志専門職大学の実習と非常に類似性を感じました。開志専門職大学の実習でも企業を訪れ企業の課題解決をしたり、商品開発をしたりするので、重なる部分があると感じました。

② 先進事例紹介では、燕三条工場の祭典実行委員長である秋元さんに、昨年で13回目となった工場の祭典をどのように運営しているのか、その成果などをお話ししていただきました。そもそもなぜ工場の祭典を行うのかについては、(1)ものづくりの技術を世界に伝えたい(2)技術を若い人に伝えたい(3)実際にもものづくりの様子を見て道具を大事にしてほしいからとおっしゃっていました。新潟市東区で行われるオープンファクトリーも、「産業のまち」「ものづくりのまち」として発展してきた東区の魅力を区内外に発信するために産官学金連携で行われている取り組みです。燕三条と新潟市東区に共通するものがありました。燕三条には、3000社以上の工場がある中で、昨年の工場の祭典に参加したのは133社と、全体数と比べると決して多くはありませんが、年々参加企業が増加しているようで、これからの盛り上がり期待しています。また、工場の祭典をPRするために、日本だけでなく、台湾やスペインなど海外でもイベントを開催しているため、海外からの観光客もこれから見受けられるのではないかと感じました。

③ 最後にクロストークセッションでは、5名の方による、自社の紹介や東区オープンファクトリーに参加してみたの変化などを語っていただきました。

〈トークセッション出演者の方々〉

- ・秋元哲平さん（燕三条 工場の祭典 2025 実行委員会 実行委員長）
- ・吉田香那子さん（有限会社阿部仏壇製作所 取締役）
- ・瀬戸正義さん（北陸重機工業株式会社 工場長）
- ・吉川理恵さん（有限会社吉川鉄工所 取締役）
- ・高澤陽二郎さん  
（新潟市東区オープンファクトリー実行委員会 副実行委員長（新潟大学経済科学部 助教））

東区オープンファクトリーに参加したことで、企業の課題が見えたり、既存のスタッフの東区オープンファクトリーに対する想いが高まったりしたという意見がありました。参加を通してもっと東区のイベントに参加したいという声や、この経験を通して企業のこれ

からの可能性が見られたという声もあり、参加企業それぞれがオープンファクトリーに対して感じていることがありました。燕三条で行われている工場の祭典でも同じような声が多く、来場してくれるお客さんと繋がる事が出来ることはもちろん、参加している企業同士ももっと繋がっていくことも大事だと感じました。特に、新潟市東区では、燕三条のように企業が集積している地域と比べ、企業同士の繋がりが生まれにくいということから、企業間での交流を増やし、東区オープンファクトリーに参加する企業をもっと増やしていく必要があると考えます。

### **シンポジウムに参加してみよう**

新潟市東区がものづくりのまちというイメージが今までなかったのですが、幅広いジャンルでものづくりがされているのだなと知ることが出来ました。学生と共創することについては、新潟大学、新潟県立大学だけでなく、開志専門職大学でも実習での経験が活かされると感じました。これからの東区オープンファクトリーでも多くの人に東区の企業の魅力を感じてもらえるように産官学金連携を通してより良いイベントになることを期待しています。

最後まで読んでいただきありがとうございました！